

次女・河村陽子さんが郷土の子どもたちのため寄贈

光陽直筆の楽譜 福智の財産に

図書館・歴史資料館の完成に向けて活動する福智町に、
河村光陽が残した千を超える貴重な資料が寄贈されました。

←寄贈された千項目以上のうち、光陽直筆の楽譜は461点（ノート15冊）。貴重な資料を手にする嶋野町長と江村教育長。



町の誇り 河村光陽の息吹宿る資料

数々の名曲を残した福智町出身の童謡作曲家・河村光陽（本名：直則）の直筆の楽譜をはじめとする貴重な資料51点が、町に寄贈されました。昭和初期に光陽自身が書いた「仲良し小道」などの楽譜や当時の出演プログラム、長女・順子さん（歌手）の新聞記事

など1166項目におよぶ資料を次女・陽子さん（東京都）が寄贈。「子どもの感性を何よりも大切にしたい父の資料。大切に保管していただき、ふるさとの子どものためになれば父も喜ぶ」と、図書館・歴史資料館の完成を予定する町に、期待を込めて託されました。



河村光陽（本名：直則）は、明治30年に旧上野村（福智町）で生まれました。小倉師範学校を卒業後、音楽教師として金田小学校に赴任。やがて音楽家としての夢をかかなえるため、欧州での音楽研究を視野に朝鮮へ渡りましたが、社会情勢の悪化で帰国し上京。東京音楽学校選科（現東京芸大）で音楽理論等を学びました。のちに「かもめの水兵さん」や「うれしいひなまつり」をはじめ千余曲を作曲。日本童謡史に一時代を築きました。

↑光陽の功績を顕彰する上野焼陶芸館横の「協奏の庭」



↑かつて生家と隣接し、生誕地記念碑が建つ福智下宮神社。幼い頃の感性を育んだ神楽の音色が音楽家としての原点になっています。



絶版で入手できない貴重な当時の作曲選